

〔徳島農研報 No.2〕
〔23～28 2005〕

山ぶき新品種 ‘みさと’ の育成

高木一文・小角順一

Breeding of a new fuki (*Petasites japonicus* (Sieb. et Zucc.) Fr. Schmidt)
cultivar for yama-buki, ‘MISATO’

Kazufumi TAKAGI and Junichi KOSUMI

要

約

高木一文・小角順一(2005)：山ぶき新品種 ‘みさと’ の育成。徳島農研報, (2):23～28.
山ぶきとしての品質に優れた早生のフキ品種を育成するために、野生種のフキを選抜して生育特性や品質等について調査し、目的にかなった新品種 ‘みさと’ を育成し、品種登録を出願した。

本品種は葉柄基部の紅色が鮮明で、4月中旬から収穫でき、フキノトウの品質も良い山ぶき専用の品種である。

キーワード：育種, フキ, 山ぶき, フキノトウ

はじめに

山ぶきは、自然食志向の高まりもあって需要が増大しており、中山間地域における特産物として注目されている。徳島県でも神山町をはじめ、全県的に大小産地が散在し、京阪神市場を中心に出荷され、年間約7千万円の販売金額がある。

しかし、県内外を問わず市場流通する山ぶきは、そのほとんどが山採りのもので、品質が不均一なのが現状であり、有利販売をするには優良品種に統一し、品質を揃える必要がある。また山ぶきは4～5月に出荷が集中するが、1～3月の価格が高く、市場や生産現場からは早生で山ぶきとしての優れた形質を有する品種の育成が望まれている。

そこで、県内から野生種由来のフキを選抜・収集し、優れた特徴を備えた品種 ‘みさと’ を育成したので報告する。

試験方法

1 育成目標

市場出荷に適した品種を育成するため、市場流通関係者に聞き取り調査し、次の目標を設けた。

- 1) 収穫時期：露地で4月中旬までに収穫開始出来る早生である。
- 2) 大きさ：山ぶきとして市場に好まれる、葉柄長16～35cm²⁾、太さ7mm未満が多く穫れる。
- 3) 葉柄色：下部の紅色着色部が長く濃く鮮明であること。また緑色部が濃く鮮明で条斑等が少なく着色部とのコントラストが鮮明である。
- 4) フキノトウの発生が多く、10g前後の小形で締まりが良く、丸みを帯びた形状のもの。
- 5) その他、外観では綿毛、毛じが少なく、内質では香りが強い歯触りがよい等、山ぶきとしての商品価値が高いもの。

2 供試材料

1998年から1999年にかけて選抜収集した18系統と2000年に選抜収集した7系統、計25系統を使用した。収集した系統の一覧は第1, 2表に示した。

3 耕種概要

種苗法に基づく「品種の特性を検定するための栽培試験方法」³⁾の耕種基準に基づいたが、山ぶきの選抜という目的から、施肥量については窒素成分で基準の約半量とした。

1) 育成場所：徳島県三好郡池田町農業研究所中山間担当圃場

2) 試験規模：1系統当たり1.5㎡、最終選抜は6㎡

3) 定植：1999年4月23日、2000年3月27日

4) 栽植密度：畦幅150cm、株間20cm、3条植え(10種根/㎡)³⁾

5) 施肥：㎡当たり窒素－リン酸－カリ成分でそれぞれ25－15－20g(窒素、カリはうち60%を追肥)¹⁾

6) 管理：定植直後に畦面に敷草を施した。遮光および病虫害防除は行わなかった。

4 調査方法

種苗法に基づく「品種の特性を検定するための栽培試験方法」³⁾によって調査したが、育成目標に応じた調査は次のように行った。

1) 休眠性を推察するための地上部の枯死時期は、区内の秋までに展開した緑葉が完全に黄変した時期とした。

2) 萌芽は区内で展開葉が5枚現れた時点とした。

3) 葉柄の伸長は地際から葉身の付け根までの葉柄長を、生育期から収穫適期までの3回測定した。(任意の10本の平均値)

4) フキノトウの発生時期は直径15mm以上のものが区内で5個現れた時点とした。

5) フキノトウの発生数は1シーズン中に発生したすべての個数を調査した。

6) フキノトウの重量、長さ、鱗片葉数は収穫ピーク時の任意の10個の平均値とした。縮まりは達観によった。

7) 葉柄の収量は2001年4月16日、同30日、5月13日の3回収穫したうち、葉柄長16～40cmのものを対象とした。また秀品はそこから色が良くないもの、条斑、曲がりの程度が著しいものを除いた。フキノトウの収量は適期に達したものを随時収穫し、全量を収量とした。

8) 葉柄長はもぎ取り収穫後の葉柄の根元から葉身付け根までの長さ、着色部の長さはそのうち紅色に着色した部分の長さとした。葉柄の太さは葉柄長のほぼ中間

点における直径(溝を上にした断面における横径)とした。

9) 草勢、早晚性、外観的特徴は適宜観察した。

10) 官能検査は生の葉柄の香りと色彩の程度、はく皮後5分茹で味付けせず冷ましたものの歯触りと香りについて、各項目50点満点(対照の‘池田ウマバ’を中間の25点)とし15名が検査を行った。

11) 対照品種は種苗法に基づく「野菜品種特性分類調査基準」³⁾により‘愛知早生’、および、これまで当研究所が山ぶきの供試品種としてきた‘池田ウマバ’の2品種とした。

育成経過および試験結果

1998年から1999年に収集した18系統の生態的、形態的特性は第1表のとおりであった。性別は、8系統が雄、10系統が雌株であった。地上部の枯死時期は4系統が年内に、残り14系統は1月以降の枯死となった。萌芽時期は3月上旬までに萌芽したものが6系統あったが枯死時期との関係に一定の傾向はみられなかった。露地の山ぶきの出荷始め時期にあたる4月17日の葉柄長では、出荷規格の16cmに満たないものが‘上那賀平谷’外9系統あった。また‘井川野住’は出荷規格を大幅に超え、いずれも不適格であった。フキノトウの発生数、形質は系統により差が大きかった。‘池田シンヤマ’は発生数は多かったが頂芽以外は極小型で不適格であった。‘美郷1’はフキノトウの鱗片が赤い、‘西祖谷山中津5’は葉柄に赤色条斑が多いなど、それぞれ欠格事項が見られた。‘穴吹口山’は葉柄の収穫時期が早く、緑色部、紅色部とも濃色であり、フキノトウは発生数が多く、緑色が鮮明であった。‘川島鳶ヶ巣’は、葉柄は太いが収穫時期が早かった。‘美郷3’(以下‘みさと’とする)は、葉柄の紅色部が特に濃色で、フキノトウは発生数が多く形状が優れた。‘西祖谷山有瀬’は、葉柄はやや細いが収穫時期が早く、フキノトウが大きく発生数が多かった。

以上の結果から、‘穴吹口山’、‘川島鳶ヶ巣’、‘みさと’、‘西祖谷山有瀬’を目標に近いものとして選抜した。

1999年に選抜した4系統に加え、2000年に収集した7系統(No.19～25)の計11系統の外観の特徴およびフキノトウの早晚性を観察した結果を第2表に示した。2000年に収集した7系統のうち、‘神山K’以外の6系統は葉柄が太過ぎる、長過ぎる、条斑や毛じが多い等、山ぶきとしての規格や品質が対照の‘池田ウマバ’に比べ劣った。また、‘穴吹口山’は、葉柄に黒色条斑が多発したことから選抜系統から除いた。

山ぶき新品種 ‘みさと’ の育成

第1表 各系統の生育特性 (1998, 1999年収集)

収 集 系 統 名	地上部生育					フキノトウ生育収穫調査					性 別	備 考
	枯 死	萌 芽	葉柄伸長 (cm)			発生 時期	発生数 (/ ㎡)	重 量 (g/ 個)	縦 径 (cm)	鱗 片 (枚)		
			4/7	4/17	4/28							
1 穴吹口山	1 / 上	3 / 上	16.6	25.5	32.4	11/ 下	52	9.6	5.8	33	♂	早生で濃色
2 川島鳶ヶ巣	12/ 下	2 / 下	13.5	27.0	31.9	12/ 上	16	11.2	4.8	36	♀	葉柄が早生
3 上那賀平谷	1 / 上	3 / 上	7.4	12.6	15.5	11/ 下	23	9.6	4.8	31	♂	葉柄に赤条斑
4 美郷1	1 / 上	2 / 下	8.3	17.5	28.7	12/ 上	60	8.3	5.8	28	♀	鱗片色が赤
5 美郷2	12/ 下	3 / 中	8.0	13.4	19.0	12/ 上	58	10.2	5.3	26	♂	葉柄が晩生
6 美郷3 (みさと)	1 / 上	3 / 内	10.4	17.7	27.6	12/ 上	66	9.6	6.2	29	♂	早生で濃色
7 美郷4	1 / 上	3 / 上	8.4	13.4	21.3	12/ 上	29	10.3	8.2	28	♀	葉柄が晩生
8 美郷5	12/ 下	3 / 中	7.1	14.7	24.9	12/ 上	26	10.1	7.5	31	♀	葉柄が晩生
9 美郷6	1 / 上	3 / 中	6.8	13.2	20.6	12/ 上	65	13.4	6.6	29	♀	紅色部が淡色
10 西祖谷山中津1	1 / 上	3 / 下	3.8	5.2	12.8	11/ 下	85	8.8	4.5	27	♂	葉柄に赤条斑
11 西祖谷山中津2	1 / 上	3 / 下	4.7	12.6	25.0	11/ 下	62	5.4	4.6	21	♂	早期に開花
12 西祖谷山中津3	1 / 上	3 / 中	7.9	15.0	23.9	11/ 下	50	8.8	6.0	22	♂	葉柄が淡色
13 西祖谷山中津4	1 / 上	3 / 下	5.4	11.2	18.9	12/ 上	27	20.2	7.1	39	♀	葉柄が晩生
14 西祖谷山中津5	12/ 下	3 / 中	12.0	16.2	24.5	12/ 上	59	13.9	8.2	32	♀	葉柄に赤条斑
15 西祖谷山有瀬	1 / 上	3 / 中	10.4	25.5	32.2	12/ 上	102	11.1	9.4	33	♂	早生, とう多
16 井川野住	1 / 上	2 / 下	28.5	46.4	48.2	11/ 下	13	26.3	10.9	30	♀	長く太い
17 池田ウマバ	1 / 上	3 / 中	13.8	16.3	26.9	11/ 下	71	12.6	5.1	53	♀	とうが開く
18 池田シンヤマ	1 / 上	3 / 下	—	—	—	11/ 中	158	4.1	2.2	24	♀	とうが極小

注) 特性調査の結果選抜した系統を太字とした

第2表 各系統の外観の特徴及びフキノトウの特性 (2000年)

No.	収集 年度	系 統 名	葉 柄					ふ き の と う				備 考
			太さ	長さ	色	条斑	毛じ	型	色	しまり	早晩生	
1	’98	穴吹口山	中	中	濃	多	多	卵	緑	後半ゆるい	早生	葉柄に黒条斑
2	’98	川島鳶ヶ巣	太	長	中	中	中	丸	灰緑赤	硬く頭開く	晩生	早生多収性
6	’98	美郷3 (みさと)	中	中	濃	少	中	卵	緑赤	よく巻く	やや晩生	濃色, とう優れる
15	’99	西祖谷山有瀬	細	中	濃	後半多	中	丸卵	緑赤	ややゆるい	中生	多収性
19	’00	神山1	太	長	濃	少	中	卵	緑赤	普通	やや早生	葉柄が太過ぎる
20	’00	神山2	中	中	中	中	中	長卵	緑赤	普通	中生	とうが長過ぎる
21	’00	神山3	太	中	濃	多	中	丸卵	緑赤	よく巻く	中生	葉柄が太過ぎる
22	’00	神山4 (K)	太	長	濃	やや多	中	卵	緑赤	後半頭開く	早生	紅色部が濃色
23	’00	池田2	中	中	中	中	中	卵	緑赤	普通	中生	草勢が弱い
24	’00	山城1	中	長	中	中	中	長卵	緑赤	ややゆるい	中生	葉柄が長過ぎる
25	’00	山城2	中	長	淡	少	多	丸卵	緑赤	普通	中生	葉柄が長過ぎる
—	—	愛知早生 (対照)	太	長	淡	中	中	長卵	緑赤	ゆるい	早生	—
—	—	池田ウマバ (対照)	中	中	濃	少	中	丸	灰赤緑	硬く頭開く	中生	—

注) 特性調査の結果選抜した系統を太字とした

その結果, 2001年には ‘みさと’, ‘川島鳶ヶ巣’, ‘西祖谷山有瀬’, ‘神山K’ の4系統で再比較を行った。

2001年に行った葉柄の収量および秀品率の調査結果は第3表に示した。比較した4系統の中では, 収量が最も

多かったのは ‘神山K’ で, 秀品率が最も高かったのは ‘川島鳶ヶ巣’ であった。

草勢, 外観の特徴, フキノトウの早晩性の観察結果は第4表に示した。‘川島鳶ヶ巣’ は生育が旺盛だが葉柄は ‘池

第3表 葉柄の1 m²当り収量及び秀品率 (2001年)

系 統 名	1 回目 (4/16)		2 回目 (4/30)		3 回目 (5/13)		収穫合計		秀品率 (%)		
	本数	重量(g)	本数	重量(g)	本数	重量(g)	本数	重量(g)	4 月	5 月	計
みさと	7	26	65	354	87	615	159	995	80.0	64.0	70.1
川島鳶ヶ巣	43	243	29	1,111	22	238	94	1,591	77.7	70.1	76.6
西祖谷山有瀬	138	467	135	768	84	580	357	1,815	84.4	27.8	68.4
神山K	47	202	129	1,329	49	528	225	2,059	66.1	43.6	60.3
愛知早生 (対照)	58	3,395	36	2,076	53	3,006	147	8,477	—※1	—※1	—※1
池田ウマバ (対照)	31	121	99	440	107	470	237	1,031	81.6	56.4	70.1

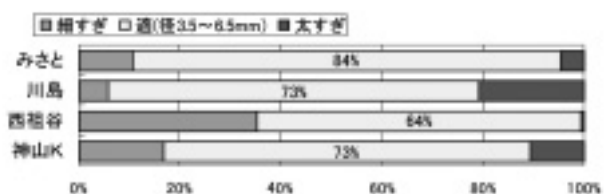
※1 山ぶきとしての商品性が認められないため調査せず。

第4表 各系統の生育相および外観の特徴 (2001年)

系 統 名	生 育	葉				柄		ふ き の と う		
		太さ	長さ	色	コントラスト	条斑	毛じ	型	色	しまり, 早晚性等
みさと	普通	中	中	濃	強	少	中	卵	緑赤	よく巻く, やや晩生
川島鳶ケ巢	旺盛	太	長	中	中	中	中	丸	灰緑赤	硬く頭開く, 晩生
西祖谷山有瀬	普通	細	中	中	弱	多	中	丸卵	緑赤	ややゆるい, 中生
神山 K	旺盛	太	長	中	強	多	中	卵	緑赤	頭開く, 早生
愛知早生 (対照)	旺盛	太	長	淡	弱	中	中	長卵	緑赤	ゆるい, 早生
池田ウマバ (対照)	普通	中	中	濃	強	少	中	丸	灰緑赤	硬く頭開く, 中生

田ウマバ」に比べ太長く、山ぶきとしての形状が劣った。また、「川島鳶ケ巢」のフキノトウは晩生で硬く締まるが頭部が開き気味であり、毛じが多いことから灰色を呈するため品質が劣った。「西祖谷山有瀬」は「池田ウマバ」に比べ葉柄が細く、収穫後期に赤色条斑が多くなり、フキノトウは締まりがややゆるいため、ともに形状、品質が劣った。「神山 K」は「池田ウマバ」に比べ葉柄が太長く、黒色条斑が多く、フキノトウは頭部が開き、ともに形状、品質が劣った。「みさと」は葉柄上部に毛じが着生するが、全体の着生程度は「池田ウマバ」と同程度であり、葉柄の太さ、長さ、色とも「池田ウマバ」と同程度で山ぶきとして適当であった。特に緑色部、紅色部ともに濃色、鮮明でコントラストが強かった。また、「みさと」のフキノトウは卵型で鱗片の幅が広く頭部の巻き込みが良いことから開きに良かった。

葉柄の太さの比率の調査結果は第1図に示した。「みさと」は山ぶきとして適当な 3.5 ～ 6.5 mm の比率が供試系統の中で最も高かった。



第1図 葉柄の太さの比率 (本数)

規格別の葉柄の太さの調査結果は第5表に示した。「みさと」はS規格で3.8 mm, M規格で4.1 mm, L規格で5.2 mmと、各サイズとも山ぶきとしてバランスの良い適当な太さであった。

第5表 各系統の葉柄の太さ (2001年)

系 統 名	S (mm)	M (mm)	L (mm)
みさと	3.8	4.1	5.2
川島鳶ケ巢	3.8	4.6	5.5
西祖谷山有瀬	3.0	3.9	4.2
神山 K	3.7	4.3	5.2
愛知早生 (対照)		(8.7)	
池田ウマバ (対照)	3.4	4.5	5.1

注) S= 葉柄長 16 ～ 21 cm, M=22 ～ 27 cm, L=28 ～ 35 cm

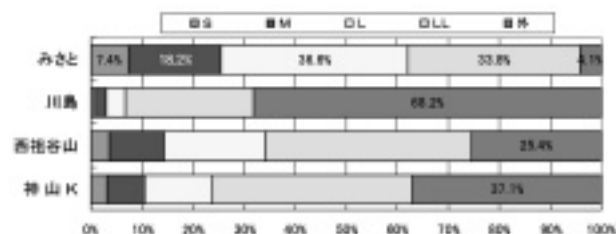
注) 愛知早生は山ぶき規格によらない。

葉柄長と葉柄下部の紅色着色部長の調査結果は第6表に示した。「みさと」の収穫適期における葉柄の長さは31.8 cmと供試系統中最も短く、山ぶきとして適当であった。また、「みさと」の葉柄下部の紅色着色部長は4.4 cmと「神山 K」に次いで長く、葉柄長に対する着色部の率では13.8%と供試系統中最も高かった。

第6表 葉柄下部の紅色着色部長 (2001年)

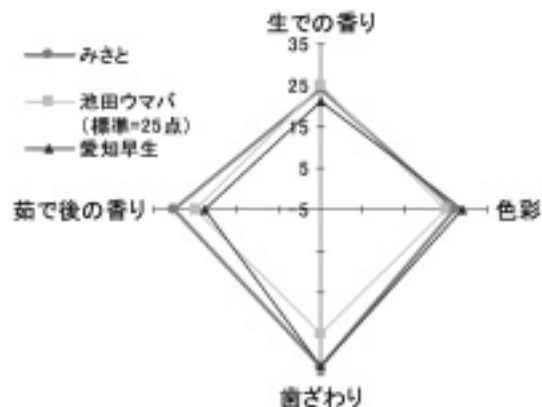
系 統 名	葉柄長 (cm)	着色部長 (cm)	着色部率 (%)
みさと	31.8	4.4	13.8
川島鳶ケ巢	63.9	6.1	9.5
西祖谷山有瀬	32.8	4.3	13.1
神山 K	41.5	5.3	12.8

規格別の収量比率は第2図に示した。「みさと」は規格外の比率が4.1%と供試系統中最も低かった。



第2図 規格別収量 (重量比)

官能検査の結果は第3図に示した。「みさと」は特に茹でた後の香りや歯触りが優れ、対照品種を上回った。



第3図 官能検査結果 (2001年)

山ぶき新品種 ‘みさと’ の育成

第7表 各系統のフキノトウの形質、収量と秀品率（2001年）

系 統 名	重 量 (g)	縦 径 (cm)	横 径 (cm)	鱗片数 (枚)	鱗片長 (cm)	鱗片幅 (cm)	締まり	収 量		秀品率 (%)
								g/ m ²	個 / m ²	
みさと	7.2	5.4	3.1	25.8	4.8	2.7	極良	222.4	40.5	79.1
川島鳶ヶ巣	11.2	4.8	3.5	35.5	3.1	1.5	不良	—※1	—※1	0.0
西祖谷山有瀬	8.2	4.0	2.9	35.4	3.6	1.6	良	190.7	50.5	37.2
神山 K	9.5	5.2	2.8	20.8	4.1	3.0	良	188.5	27.5	54.9

※1 山ぶきとしての商品性が認められないため調査せず。

フキノトウの形質・収量と秀品率の調査結果は第7表に示した。‘みさと’のフキノトウは卵型で平均1個重は7.2g、鱗片の幅が広く頭部までよく巻き締まりが良く、市場に多く流通する‘愛知早生’より商品性が高かった。また、‘みさと’のフキノトウは収量が222.4g/m²、秀品率が79.1%で、それぞれ山ぶきの供試系統の中では最も高かった。

以上の結果から、葉柄の収量は少ないが葉柄、フキノトウともに品質が優れ、育成目標の要件を総合的に満たす‘みさと’を最優良系統と認め、2002年12月育成を完了した。‘みさと’の葉柄と葉、フキノトウは第4図－a,bに示した。



第4図－a ‘みさと’の葉柄と葉



第4図－b ‘みさと’のフキノトウ

第8表 ‘みさと’特性表

区 分	形 質	出願品種の特性値 (標準品種との比較)								備考 (測定値等)	品種の特性値等 (愛知早生) (池田ウマバ)	
		01	02	03	04	05	06	07	08		05	04
01 芽	ほう芽			少	○中		多			3.6 個	05	04
	葉数			少	○中		多			5.9 枚	05	04
02 葉	葉身展開度			小	⊗		大				05	05
	葉柄の太さ			○	細	中	太			5.2 mm	05	01
	葉柄の長さ			○	短	中	長			31.8 mm	05	02
	葉柄の緑色度				淡	中	濃				05	06
	葉柄のはく皮後の緑色度				淡	中	濃	○			05	06
	葉柄の色素・下	無							⊗		09	09
	葉柄の色素・中	⊗							有		—	01
	葉柄の色素・上	⊗							有		—	01
	葉柄の色素の程度			淡				○			05	07
	葉柄の赤紫条斑		○	少	中	多					05	03
	葉柄の緑色条斑		○	少	中	多					05	02
	葉柄の毛じ			少	○中	多					05	05
	葉柄の断面・下	①	2	3	4						02	01
	葉柄の断面・中	1	2	③	4						03	03
	葉柄の断面・上	1	2	③	4						03	03
	葉柄の空洞・下	⊗							有		01	01
	葉柄の空洞・中	⊗							有		09	01
	葉柄の空洞・上	⊗							有		09	01
	葉柄の空洞化程度	○		小	中	大					05	01
	葉柄線の大きさ			⊗	中	大					05	03
	葉柄表皮のむきやすさ			易	⊗	難					05	05
	葉柄の折れやすさ			易	中	○難					05	06
	葉柄の硬さ			難	中	○硬					—	06
	葉柄のかきとり			易	○中	難					05	05
	葉柄のあく			弱	中	○強					05	06
	葉柄のかおり			低	中	○高					05	06
	葉身の形	1	②	3	4	5					03	04
	葉身の大きさ			①	中	大					05	03
	葉緑の欠刻			①	中	大					05	04
	葉身の色			淡	○中	濃					05	05
	葉脈の色素	⊗基部	全								02	03
	葉身の厚さ			薄	○中	厚					05	04
	葉面の波打ち			小	中	⊗					05	05
	葉脈の太さ			細	○中	太					05	04
	葉身の毛じ			少	⊗	多					05	05
03 茎	地下茎の太さ			⊗	中	太				6.5 mm	05	02
	地下茎の節間長			⊗	中	長				19.4 mm	05	03
	地下茎の色素	⊗節	全								02	01
04 とう	とうの大きさ			①	中	大				5.4 cm/7.2g	05	03
	とうの黄緑色			淡	中	⊗					05	06
	とうの色素	無							⊗		09	09
	とう数・種根			少	中	⊗				4.1 個	05	07
	とう数・株			少	中	⊗				1.1 個	05	07
	とうの苦味			弱	⊗	強					05	07
05 生態的 特性	とうのかおり			低	中	⊗					05	05
	性別	雌	混	⊗							01	01
	種子稔性	無							有		—	09
	花粉稔性	無							⊗		—	—
	ほう芽の早晩			早	⊗	晩					03	05
	とう出現の早晩			早	⊗	晩					05	05
	耐寒性			小	⊗	大					05	05
	耐暑性			小	⊗	大					05	05
	耐干性			小	⊗	大					05	05
	耐湿性			小	⊗	大					05	05
	シラキス病抵抗性			小	⊗	大					05	05
	フキノメイガ抵抗性			小	⊗	大					05	05

種苗法による品種特性分類調査（‘愛知早生’を標準とする）では、‘みさと’は次のとおりであった。

萌芽数、葉数はやや少、葉柄の太さは極細、長さは極短、緑色度および皮後の緑色度は濃、色素は下位は有、中上位は無、アントシアン着色程度は濃、赤紫および緑色条班は極少、毛じはやや少、空洞は無、稜の大きさは小、表皮のむき易さは中、折れ易さはやや難、硬さはやや硬、かきとり易さはやや易、あくはやや強、かおりはやや高、葉身の大きさ、葉緑の欠刻は小、葉面の波打ちは大、葉身の毛じは中である。地下茎の太さは細、節間長は短、色素は無である。

フキノトウの大きさは小、黄緑色は濃、色素は有、数は多、苦味は中、かおりは高である。性別は雄、萌芽の早晩は中、フキノトウ出現の早晩は晩である。

同調査による‘みさと’の特性表は第8表のとおりであった。

考 察

本品種は、中山間地域における山ぶき産地の現状から、行政、各普及センターと農業研究所が連携した事業により育成したものである。本品種は、卸売市場や料理店からも「申し分のない品質」と評価が得られたことから、面積拡大を図ることにより、品種統一による山ぶき産地のブランド確立を推進する必要があると考えられる。

本品種の栽培適地は、特に他のフキと異なる点はなく、中山間地域で水はけが良く保水力のある半日陰地であれば標高に関係なく県下全域で栽培可能と考えられる。しかし、フキは栽培条件により品質の変化が大きいことから、試験栽培により特性が十分発揮されるかどうかを確認してから本格導入するのが望ましい。

栽培上の留意点は、白絹病の発病程度が‘愛知早生’と同等であることから防除に努めること、葉身の厚さがやや薄いので、日ざしが強く土壌が乾燥しやすい圃場では盛夏期に日焼けを受けやすいこと、栽培初年度は生育

が旺盛で葉柄が太くなりやすいので施肥は控えめにする、ハウスの被覆栽培をする場合、寒さに十分遭遇させてから被覆すると収穫までの日数が少なく生育が揃うこと、敷き料の施用により根元の紅色部分がより拡大し鮮明になることが挙げられる。

本品種は、2002年12月‘フキ徳島1号’として育成を完了し、2003年3月、徳島県が株の提供者である麻植郡美郷村（現吉野川市）の森永節雄氏との共同で農林水産省に品種登録を出願した。出願時の名称‘みさと’は、本種の選抜地美郷村に因んだ。

摘 要

山ぶきとして優れた品種を育成するため、野生種のフキを選抜収集し生育特性や品質等について調査し、目的にかなった新品種‘みさと’を育成し、品種登録を出願した。

1 来歴

野生由来のフキ25系統を選抜収集し、特性調査により選拔し、‘みさと’を最優良系統と認め2002年12月育成を完了した。

2 特性

本品種は葉柄基部の紅色が鮮明で4月中旬から収穫でき、フキノトウともに品質が良い、山ぶき専用の品種である。

引用文献

- 1) 徳島県農林水産部(2002):野菜生産指針 61山ぶき: 225~226.
- 2) 徳島県農林水産部(2002):野菜生産指針 付表 出荷規格 山ぶき:20.
- 3) 農林水産省種苗課編(1998):野菜品種特性分類調査基準 フキ:1~27.